

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工学部	工学課程	夜・通信		130	100	230	13	
	機械創造工学課程	夜・通信		24	38	62	13	
	電気電子情報工学課程	夜・通信		24	28	52	13	
	物質材料工学課程	夜・通信		24	24	48	13	
	環境社会基盤工学課程	夜・通信		24	46	70	13	
	生物機能工学課程	夜・通信		24	28	52	13	
	情報・経営システム工学課程	夜・通信		24	34	58	13	
<p>(備考)</p> <p>上記学科名欄に記載の「工学課程」は令和4年度に行った学部改組による新課程であり、令和7年度が4年目である。機械創造工学課程から情報・経営システム工学課程までの6課程は旧課程となる。なお、工学課程の単位は、同課程内に設置された5つの分野（機械工学分野、電気電子情報工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野及び環境社会基盤工学分野）において開講している共通科目と専門科目の合計を示している。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学公式ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/info-by-law/index.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学公式ホームページ：

<https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/organization/directors-officers/index.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社調査役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日	高専連携・SDGs・教育研究環境担当
非常勤	株式会社役員	令和4年4月1日～ 令和9年3月31日	経営戦略・社会貢献・内部統制担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)作成年間スケジュール</p> <p>12月 カリキュラム管理部会より、各系へ次年度シラバス作成依頼</p> <p>12月～1月 科目担当教員による教務システムへのシラバス入力</p> <p>2月 各系におけるシラバスチェック実施</p> <p>3月 各系よりカリキュラム管理部会へシラバスチェック実施報告 大学 web サイト上で次年度シラバス公開</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学公式ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/syllabus/index.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 原則として、その授業の終了する学期末に試験を実施して、学修成果を評価している。ただし、担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、随時試験をもって試験に代えることがある。 また、授業科目によっては、平常の成績又はレポート等をもって試験に代えることがある。各科目の詳細な成績の評価方法と評価項目については、シラバスに示している。</p> <p>(2) 履修申告が行われていない科目の試験を受けることは不可としている。</p> <p>(3) 学期末の試験をはじめ、すべての試験における不正行為を禁止し、不正行為を行った者については懲戒するとともに、履修上の処罰も課している。</p> <p>(4) 出欠システムにより学生の学修意欲を把握し、必要に応じて個別に指導を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学習到達度を総合的に判断するために指標及び国際的な成績評価スキームに適合させるためにGPA (Grade Point Average) を導入し、履修案内上で下記の事項を公開している。

- (1) 履修科目の評価は、授業中の成績、試験の成績又はその両者によって行われる。
- (2) 成績はS、A、B、C及びDの評語 (Grade を示す) で表され、それぞれ次の意味と対応する。

成績	意味	点数	GP
S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4
A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3
B	科目の目標を達成している	70点～79点	2
C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1
D	科目の目標を達成していない	0点～59点	0

※GPとは成績 (Grade) に対応づけた Point のこと

S、A、B、Cの評価を得たものを合格とし、単位を授与する。

なお、特別な授業科目については、S、A、B、Cの評価に代えて、合格を示すGで表すことがある。

- (3) 既修得単位の取消し及び既修得単位の成績を再履修によって更新することはできない。
- (4) GPAは、合格、不合格に関わらず全履修科目のGPの単位数による重み付け平均値により算出する。ただし、卒業要件に関係しない科目は、この計算から除外される。なお、受講を途中放棄した科目及び試験等を受験しなかった科目の単位数もGPA算出の母数に含め、計算上「0点」として扱う。GPAは小数点以下二桁まで表示する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学公式ホームページ「履修案内」(以下URLの「履修案内」中の「7. 成績の評価と単位の授与」に記載)：
<https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/course/index.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○ディプロマ・ポリシー

本学学士課程が育成を目指す人材像は、情報技術を活用し、グローバルに活躍できる実践的・創造的能力を備えた指導的技術者です。そのために、以下の四項目を、教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目による大学内外での幅広い学修により身につける学生の到達目標とします。

1. 理数の技法と技術科学の見方

理数とデータサイエンスの概念・技法の習得、及び社会を支える様々な技術の科学的理解。

2. 思考力・表現力と社会的視野

理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び技術と社会、安全、環境との関わりの理解。

3. 専門の基礎力

技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。

4. コミュニケーションと協働の力

英語による技術コミュニケーション基礎力、及び国際感覚を持ちチームで協働できる能力の習得。

この目標のために開講される講義、演習、実験・実習科目、及び実務訓練を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者に学士号が授与されます。

○卒業の要件

(1) 学部卒業に必要な要件は学則第 46 条に示されているが、この中で修得すべき単位数については、分野ごとに更に詳細な基準が設けられており、履修案内中に「卒業の要件」として示している。(学部履修案内 卒業の基準 別表Ⅱ参照)

学則及び別表Ⅱについては、下記 URL で公表している履修案内に記載している。

<https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/course/index.html>

(2) 第 1 学年入学者については、別表Ⅱ「卒業要件単位数」欄の単位数が卒業に必要な本学で修得すべき最小の単位数である。

(3) 第 3 学年入学者については、別表Ⅱ「第 3 学年入学者の取扱い」欄のとおり既修と認められる標準の単位数があるので、「本学で修得すべき最小の単位数」欄の単位数が第 3 学年入学者の卒業に必要な最小の標準的な単位数である。詳細は各分野の履修案内のとおり。

(4) 別表Ⅱの()内の数字は、教育課程表で示した必修科目の単位数であり、この数を差し引いた数値が、選択科目から修得すべき最小の単位数となる。なお、選択科目は、都合により開講されないこともあるので、余裕のある履修計画を立てることが望ましい。

(5) 教職課程科目の修得単位については、卒業要件の単位として取り扱わない。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学公式ホームページ：
<https://www.nagaokaut.ac.jp/admissions/policy/b-diploma/index.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長岡技術科学大学
設置者名	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学公式ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	—
事業報告書	大学公式ホームページ： https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/finance/index.html
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称：)	対象年度：)
公表方法：	
中長期計画(名称： 第4期中期計画	対象年度： 2022～2027年度)
公表方法：大学公式ホームページ https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/plans/mid-term-goals/index.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学公式ホームページ https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/plans/outside-evaluation/index.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：大学公式ホームページ https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/plans/ce-university/index.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ホームページ https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/info-by-law/educational-info/index.html ）
（概要） 本学の最も重要な使命は、新しい学問・技術を創り出すとともに独創的な能力のある人材を養成することにある。この使命を果たすために、本学は技学－技術科学－に関する実践的・創造的能力の啓発、それによる“独創力の増強”を教育研究の基本理念とし、常に“考え出す大学”であり続ける。この考え方のもとに、本学は技学を先導する教育研究の世界拠点として、イノベーション創出を担う実践的・創造的能力と持続可能な社会の実現に貢献する志を備えた指導的技術者を養成する、地域社会及びグローバル社会に不可欠な大学を目指す。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ホームページ「学位授与の方針」 https://www.nagaokaut.ac.jp/admissions/policy/b-diploma/index.html ）
（概要） ○ディプロマ・ポリシー 本学学士課程が育成を目指す人材像は、情報技術を活用し、グローバルに活躍できる実践的・創造的能力を備えた指導的技術者です。そのために、以下の四項目を、教養科目、外国語科目、専門基礎科目、専門科目による大学内外での幅広い学修により身につける学生の到達目標とします。 1. 理数の技法と技術科学の見方 理数とデータサイエンスの概念・技法の習得、及び社会を支える様々な技術の科学的理解。 2. 思考力・表現力と社会的視野 理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び技術と社会、安全、環境との関わりの理解。 3. 専門の基礎力 技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。 4. コミュニケーションと協働の力 英語による技術コミュニケーション基礎力、及び国際感覚を持ちチームで協働できる能力の習得。 この目標のために開講される講義、演習、実験・実習科目、及び実務訓練を履修し、卒業に必要な単位数を修得した者に学士号が授与されます。 ○卒業の要件 (1) 学部卒業に必要な要件は学則第 46 条に示されているが、この中で修得すべき単位については、分野ごとに更に詳細な基準が設けられており、履修案内中に「卒業の要件」として示している。（学部履修案内 卒業の基準 別表Ⅱ参照） 学則及び別表Ⅱについては、下記 URL で公表している履修案内に記載している。 https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/course/index.html (2) 第 1 学年入学者については、別表Ⅱ「卒業要件単位数」欄の単位数が卒業に必要な本学で修得すべき最小の単位数である。 (3) 第 3 学年入学者については、別表Ⅱ「第 3 学年入学者の取扱い」欄のとおり既修と認

められる標準の単位数があるので、「本学で修得すべき最小の単位数」欄の単位数が第3学年入学者の卒業に必要な最小の標準的な単位数である。詳細は各分野の履修案内のとおり。

- (4) 別表Ⅱの()内の数字は、教育課程表で示した必修科目の単位数であり、この数を差し引いた数値が、選択科目から修得すべき最小の単位数となる。なお、選択科目は、都合により開講されないこともあるので、余裕のある履修計画を立てることが望ましい。
- (5) 教職課程科目の修得単位については、卒業要件の単位として取り扱わない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ホームページ「教育課程編成・実施の方針」<https://www.nagaokaut.ac.jp/admissions/policy/b-curriculum/index.html>）

（概要）

本学ではディプロマ・ポリシーに基づき、学部・大学院修士課程一貫教育の考え方の下に、技術科学各分野で必要とする授業科目を開設しています。それらの授業科目により、学士課程ではグローバルに活躍できる実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を育成します。そのために、以下の方針に基づき体系的な教育課程を編成します。

1. 学部1年次入学者は、教養科目、外国語科目、専門基礎科目、学部3年次入学者は、教養科目、外国語科目、専門科目を履修します。各科目は、その目的と達成目標にふさわしく、講義、演習、実験・実習（若しくは実技）科目のいずれかとして開設します。
2. 学士課程における学修の総仕上げを目的として学部4年次に実務訓練を課します。実務訓練は大学院に進学する学生の必修科目です。実務訓練を履修しない学生には課題研究を課します。
3. 各分野における専門領域に応じた履修科目の体系化により、専門性を深めるとともに学際領域にも対応できる教育を行います。また、各分野に密接に関わる情報技術を学修します。さらに、専門性における複眼的視野を涵養するために他分野科目の履修も可能とします。
4. 教養科目は専門分野の学修を人間・社会のために役立つ能力の育成を目的とします。全分野で技術者倫理科目を必修とします。また、必修のAI・データ数理系科目により、情報技術の基礎を学修します。教養科目はディプロマ・ポリシー各項目の達成に向けて、大学院共通科目と一貫した体系的な編成とします。
5. 外国語科目は英語科目、及び第2外国語科目を設置します。英語は4技能の習得と特定技能の伸張を図り、グローバルな活動のための基礎力と実践力を鍛えます。第2外国語は基礎から会話レベルまでの授業を行います。
6. 現代社会の課題に応える融合領域や境界領域の学修の深化、または自己の専門分野以外の特定領域の学修を目的として、各種のコースを設置します。全分野の学生を対象とし、各分野に所属しながら要件として指定された科目の修得により、コース修了が証明されます。
7. 全分野でカリキュラムの系統図を示し、学生の自覚的・自律的学修を支えます。

「学修成果の評価の方針」

授業科目のシラバスに、各科目の目的と達成目標、及びディプロマ・ポリシーとの関連を明示します。科目の成績は公正・厳格かつ客観的な達成度評価により、合格した者に単位を授与します。実務訓練は、派遣先での訓練内容及び成果を訓練機関と担当教員とで評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ホームページ）
<https://www.nagaokaut.ac.jp/admissions/policy/b-admission/index.html>

(概要)

求める学生像

長岡技術科学大学は、活力 (Vitality)、独創力 (Originality) 及び世のための奉仕 (Services) を重んじる VOS の精神をモットーとしています。

本学学士課程が育成を目指す人材像は、情報技術を活用し、グローバルに活躍できる実践的・創造的能力を備えた指導的技術者です。

そこで、本学は入学を希望する学生に対し、次のような能力と資質を求めます。

1. 技術や科学に強い関心をもち、それに関わる学習に必要な基礎学力をもつ人
2. 知識をもとに思考を深め、それにより判断したことを適切に表現できる人
3. 新しい分野の開拓や理論の創出、ものづくりに意欲をもち、技術や科学を通じて社会に貢献したい人
4. 自ら積極的に学習や研究に取り組み、問題解決のために多様な人々と協力できる人
5. 優れた個性を発揮でき、責任感のある誠実な人

入学者選抜の基本方針

本学は学生に求める能力・資質を以下の方法で評価します。

学校推薦型選抜

- 調査書・推薦書により、高校時代の学習・活動歴、及び学力を評価します。
- 小論文により、知識をもとにした思考力・判断力・表現力を評価します。
- 志望調書・推薦書と面接により、人物・適性、及び基礎学力を評価します。

一般選抜 (前期日程)

- 大学入学共通テストにより、基礎学力を幅広く評価します。
- 個別学力検査により、数学と理科のより高度な学力、及び思考力・判断力・表現力を評価します。
- 志望調書と調査書により、人物・適性を評価します。

入学までに履修が望まれる教科・科目等

高等学校普通科等から入学を希望する者 (学校推薦型選抜、一般選抜)

各高等学校が定める教育課程に従い、すべての教科、科目について、大学で勉学を進めるために必要な基礎を修得していることが求められます。

特に、工学部における授業内容を理解するために必要な数学と理科、情報、及び、思考や表現の基礎となる国語と英語に関しては、次の内容を理解し、身につけておくことが望まれます。

- 数学：数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B、数学 C の知識と論理的思考能力
- 理科：「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」の 3 つの区分のうち 2 つの区分に係る知識と学力
- 情報：情報 I の知識と学力
- 国語：現代文の基礎的な読解力、表現力とコミュニケーション能力
- 英語：基礎的な読解力、表現力とコミュニケーション能力
また、アクティブラーニング (体験学習、インターンシップ、課題研究及びプレゼンテーション等) の要素を備えた科目を履修しておくことが望まれます。

専門高校から入学を希望する者 (学校推薦型選抜)

各高等学校が定める教育課程に従い、すべての教科、科目について、大学で勉学を進めるために必要な基礎を修得していることが求められます。

特に、授業内容を理解するために各分野に必要な数学と理科 (環境社会基盤工学は数学と理科、地理歴史・公民) 及び下記の科目、さらに思考や表現の基礎となる国語と英語について、学んだ内容を理解し、身につけておくことが望まれます。

機械工学分野

情報関連科目と機械工学・機械実習関連科目

電気電子情報工学分野
情報関連科目と専門分野の科目
情報・経営システム工学分野
情報関連科目と専門分野の科目
物質生物工学分野
情報関連科目と専門分野の科目
環境社会基盤工学分野
情報関連科目と環境社会基盤工学関連の科目

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学公式ホームページ「教育に関する情報」
<https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/info-by-law/educational-info/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
工学部	—	43人	61人	9人	35人	1人	149人
大学院	—	19人	14人	0人	6人	0人	39人
その他	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		239人					240人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://6041efc5.viewer.kintoneapp.com/public/4a180b7a2b4ddcce2141526f1d49e54adce65608b61a432b423aca5ac3fc9ef5					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育方法開発センターを設置し、授業及び研究指導の内容や方法の改善を図るために全学的なFDとして、FD講演会、公開授業、授業スキルアップ研修会、授業アンケート等を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	80人	80人	100%	1,000人	1,167人	85.7%	340人	400人
合計	80人	80人	100%	1,000人	1,167人	85.7%	340人	400人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	438人 (100%)	373人 (85.2%)	50人 (11.4%)	15人 (3.4%)
合計	438人 (100%)	373人 (85.2%)	50人 (11.4%)	15人 (3.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：長岡技術科学大学				
(備考)				
・本学は、大学院修士課程までの一貫教育をおこなっており、卒業者の進路では、本学大学院進学者が8割以上となっている。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	90人 (100%)	76人 (84.4%)	9人 (10.0%)	5人 (5.6%)	0人 (0.0%)
合計	90人 (100%)	76人 (84.4%)	9人 (10.0%)	5人 (5.6%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業科目は、下記 URL を参照すること。 https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/course/index.html 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行われる。</p> <p>○授業計画（シラバス）は、下記 URL を参照すること。 https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/syllabus/index.html</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>原則として、その授業の終了する学期末に試験を実施して、学修成果を評価している。ただし、担当教員が必要と認めたときは随時試験が行われ、随時試験をもって試験に代えることがある。また、授業科目によっては、平常の成績又はレポート等をもって試験に代えることがある。学生へは、各科目のシラバスにおいて詳細な成績の評価方法と評価項目を示している。詳しくは、下記 URL のとおり https://www.nagaokaut.ac.jp/student/class/syllabus/index.html</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	機械創造工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	電気電子情報工学 課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	物質材料工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位

	環境社会基盤工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	生物機能工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
	情報・経営システム工学課程	130 単位	有	学部 1、2 年生： 26 単位 学部 3、4 年生： 30 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学公式ホームページ

<https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/info-by-law/educational-info/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	全課程	535,800 円	282,000 円	—	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>「クラス担当教員」、「アドバイザー教員」を設置し、修学をはじめとする相談に対応している。</p> <p>入学前に高校や高専等で受けた教育内容の違いから、入学後に授業についていくのが難しく、基礎学力が不足していると自覚する学生や学力への不安を抱える学生に対して、大学院修士課程または博士課程の先輩が学修の支援を行う「学習サポーター制度」を設けている。</p> <p>また、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者（予約採用者）又はその他の入学者に対し、入学料及び授業料の徴収を猶予する取組を実施しており、手続き期間中に本学が指定する必要な手続きを行うことを条件に、免除結果通知までの間、徴収を猶予し、全額免除以外の結果通知を受けた場合には、指定する期日までに支払いが必要となる。</p> <p>加えて、令和6年度からその他の入学者の入学料免除適格者のうち、入学料免除許可者の次に家計評価額が低く、家計評価額と同額者多数により免除を許可されなかった者について、本学の基金による修学支援給付金を給付する制度を開始した。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>例年、就職活動を始める学生のために「就職ガイダンス（11回）」「留学生向け就職ガイダンス（3回）」就職セミナーのうち「講座2回」「模擬グループ面接（3回）」「模擬個人面接（6回）」「留学生向け模擬面接（1回）」「グループディスカッション（1回）」「合同企業研究会（対面5日間）」を開催している。この他に、「学部1年生向けキャリアガイダンス（1回）」「全学年向けキャリアセミナー（3回）」、ハローワーク長岡のジョブサポーター及び就職支援企業による進路・就職出張相談（39回）を開催し、進路や就職活動に関する悩み事等に個別対応する機会を設けている。また、各系に就職担当教員や就職事務室を配置し事務局と連携してきめ細かな就職支援を行えるよう体制を整えている。令和7年度は、合理的配慮を必要とする学生向け個別相談サポート、アカリクラウンジの開設、エージェントサービスに関するガイダンスを追加する等して、より良いキャリア支援事業の提供を計画している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生支援担当副学長をセンター長とする学生総合支援センターに「学生なんでも相談窓口」及び「障がい学生支援窓口」を設けて、専門スタッフ（キャンパスソーシャルワーカー及び学生総合支援アドバイザー）が中心となり、関係教員等と連携しながら学生の相談等にきめ細やかに対応している。併せて、体育・保健センターのカウンセラーとも関わりながら学生生活を安心して過ごすことができるように心身の健康等に係る支援を行っている。</p> <p>また、体育・保健センターにおいては、学校医、保健師、カウンセラーを配置し、定期健康診断の実施など保健管理等を行うとともに同センター内に設置した「カウンセリングルーム」において、身体的な健康相談及びメンタルヘルスに関する相談など、学生生活全般にわたっての悩みごとについての相談を受け、学生の心身の健康等のケアを行っている。</p>

さらに、クラス担当教員、指導教員、学部の各課程の教員による「アドバイザー教員」の制度に加え、大学院の各専攻の教員による「大学院学生のためのアドバイザー教員制度」を設置している。この制度は、学生を孤立させることがなくなる環境を構築することを目的とし、アドバイザー教員からカウンセラーに繋げるよう連携を図るものである。このように、多方面のチャンネルから学生の悩みをキャッチし、対応することで心身のケアを行うことができるよう体制を構築し、学生の心身の健康等に係る支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学公式ホームページ

<https://www.nagaokaut.ac.jp/outline/disclosure/info-by-law/educational-info/index.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F115110105055
学校名 (〇〇大学 等)	長岡技術科学大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人長岡技術科学大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		120人（0）人	116人（0）人	120人（0）人
内訳	第Ⅰ区分	52人	53人	
	（うち多子世帯）	（0）人	（0）人	
	第Ⅱ区分	39人	32人	
	（うち多子世帯）	（0）人	（0）人	
	第Ⅲ区分	22人	23人	
	（うち多子世帯）	（0）人	（0）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	-	
区分外（多子世帯）		0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				-（0）人
合計（年間）				122人（0）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	12人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。